

第38回 甲状腺検査専門委員会 記録

日時：平成24年6月12日(火)7:30～8:10
場所：5号館1階 県民健康管理センター

【出席者】

[医療関係] 安村副センター長、細矢教授、鈴木教授、大津留教授、坂井教授、福島准教授、緑川講師、松塚講師、中野助教、大花技師長、牧野副部長
[事務関係] 松井広報部門長、江澤主幹兼副課長、坂内主幹、山端専門医療技師、
野崎主査、その他事務職員
(記録作成) 加藤、堀田、戸部主事

【議題】

(1) 甲状腺検査にかかる情報提供について

議題1の資料について説明。

学外の先生と話した中でも、画像を出すことと出さないこと両方の見解があった。
病院によっては、(通常診療ではあるが)超音波画像の抜粋を患者に提供している例もある。

_____や_____は通常診療では、画像提供をしていますか。

していません。

所見がある場合にはしています。ただし、一律ではありません。

画像提出の要望には二つの意味合いがあると思う。一つ目は、画像を別の目的で使うことと、もう一つは、通常こういうものはもらうものだと認識している場合。

結果通知に本人の結果だけでなく、一次検査の判定のプロセスという内容を入れて返してあげるという方法もあるのではないか。囊胞や結節の具体的な超音波画像をつけ、目に見える形で一つの事例として見せる。併せて、通常の診療でも全く問題にするものではないという説明も結果通知に入れる方法で良いのではないか。

一次検査から二次検査へ進む(A2とBの)境界線は、白黒はっきりとしたぎりぎりのものではなく、大きく安全域を取って二次検査へ上げている。よって、二次検査の中でも、実際に全ての事例で細胞診まで実施しているわけではないということを伝えたい。

それについても、文章ではなくビジュアルで視覚的に伝えた方がよい。

【報告】

(1) 甲状腺検査(一次検査)実施状況について

※第7回検討委員会資料についての修正箇所の確認

【その他】

(1) 検者の体制について

こちらからも検者を多く出せなくて申し訳ないとは思っているが、検者の人数がぎりぎりで検査の現場が綱渡り状態ということもあり、できれば、県民健康管理センターで検者のスタッフをそろえていただければと思っている。

センター発足以来の課題。技師については、公募をかけ続けている。今は、センターに3名の技師がいるが、常時検査を行っているのは3名のうち1名という状態である。今後も引き続き公募はかけていく。

一人でできるようになってきている。技師は集まったとしても、医師を各日1名ずつ各科から出そうということになっている。各科間での融通はしていただいてよいし、各科において資格がないが超音波検査を行っている者に経験を積ませるようにして、検者を増やすようにしている。

その各日各科から1名というのは、現在の5班編成での検査に対して少ないのでないか。今は、福島市で行っているので、午後から手伝う、急に明日1名出すという対応が可能であるが、今後県内の遠い場所になった場合にはそういう対応ができない。検者がぎりぎりでという状態ではなく、余裕のあるような体制を福島市が終わるまでに作っていなければという印象を現場に行って感じた。

同様の意見である。当初、こちらから1日4,5名出せないかという話をいただいたが、それによって穴をあけることとなると附属病院としての業務を補つていただくような体制があれば可能とお答えしたがそのような体制は確立できなかった。ただ、それくらいの安定的なマンパワーがなければ中長期的には難しいと思う。また、現実的に言えば、我々は附属病院の業務もあるので、その業務に穴をあけられないこともある。

の意見は真摯に受け止め、対応していくかなければならない。

以上